

信号無視マップ

調査方法

11時～13時の間に10分間で

何人の人が信号無視をしたか計測した

17n1051

篠田 開

17n1070

武内 洸樹

17n1054

鈴木 皓士郎

17n1079

遠野 颯太



駅から近かったため駅の方向に延びる道側の信号無視が多かった。距離は短かったこともあり、赤信号を渡ってから青の信号を渡るといったような人が多くみられた。



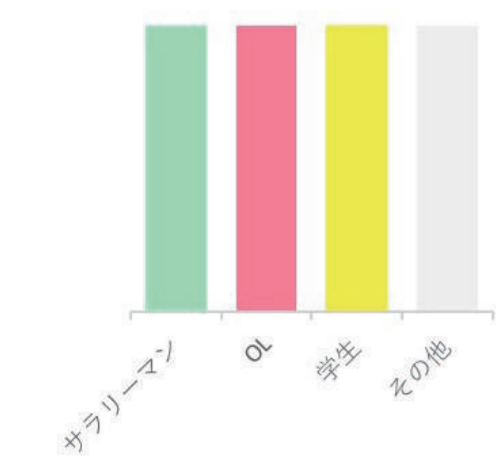
目の前に交番もあり思ったよりも少なかった。またこの特徴として完全に赤の時の無視は少ないが赤に変わってすぐに無理やり渡る人が多くいた。



駅の出口からそのまま来る人や駅に向かう人が多く、その人たちが道路を横断するためその流れで信号無視をする人が非常に多かった。細い道でも交通量は少なくはなかったにも関わらず車が来ていることをあまり確認せずに道路へ出て車が来ていたら止まるという人もいた。



少し複雑な形をした交差点。人通りは少なかったが信号を無視して渡る割合は非常に高かったと思う。また、青のところを渡るために赤信号を渡っていく人が多かった。中には赤も青も気にせず車が来ていないときに真ん中を横断していくような人もいた。



人種別の考察

信号無視をするときはたいてい急いでいるときが多い。そのため、駅までの動線はもちろんのことお昼時にはオフィスから飲食店への動線で多く信号無視があった。特に、サラリーマンやOLなど昼休憩の時間が限られている人は財布片手に急いで渡っている人が多かった。逆に学生は時間帯というよりもそれぞれの授業の始まる前のタイミングで急ぐことが多い。ただ、学生は規則を守ったりむしろ逆にのんびりしていたりするため、あまり信号無視している人は多くなかった。

考察

今回調査してみて信号無視をする人もしない人も周囲の人からの影響を強く受けていることがはっきりとわかった。道幅が狭く交通量がそれほど多くない、いわゆる信号無視が出来そうな交差点ではほとんどの人が車だけでなく周りに人がいるかを確認する人が多かった。前を歩いていた人が信号無視をすると後ろにいた人はつられて信号無視をしてしまっていた。そのようなことが次々と起きて、二人・三人と連鎖的に信号無視をしていくことが何度も見られた。また、飯田橋より水道橋側の人数が多い。地図を見てわかるように、飯田橋は飲食店が多く、水道橋はオフィスが多い。つまり、オフィスが多いところのほうが無視する人が多く、さらに全体的にサラリーマンの割合が大きい。